

催事開催のご案内

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) は、デザインを人々の日常生活に採り入れ、より豊かに生きることを提案しています。またデザインやアートの持つ、既成概念にとらわれない自由な視点で、多種多様な人々の交流から生まれるアイデアや工夫により、社会的な問題を解決していく、+クリエイティブという手法を実践するプログラムを開催しています。

5月開催の催事をご案内いたしますので、取材や掲載のご協力いただけますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

神戸料理フォーラム vol.2 トークイベント 琉球弧の在来豚と生きる
2013/6/28(金) 19:00-21:00 (開場 18:30) / 参加費 1000円 (試食有)
定員 100名 / 講師 高田勝、モデレーター 楠田裕彦 (メツゲライクスダ)



沖縄の風俗と歴史にはぐくまれた沖縄の豚「今帰仁アグー」を紹介します。

沖縄の食は、日常食と行事食があり、「豚」はその中心的存在です。季節の変わり目の祭祀、ハレの祝い行事、集落や一族の催事には供犠儀礼を行い、無病息災を祈り「豚」を葬り、医食同元の考えの元で「豚」を食べ、節分を乗り越えていきます。精霊に供える「伝統的豚」は、「白ではないこと」「非日常の形体でないこと」など一定の基準があり、儀礼があるために昔ながらの「豚」が残されて来ました。今回、紹介する「今帰仁アグー」はその形態を色濃く残した豚です。精霊を信仰する沖縄の風俗と習慣に生きてきた沖縄の豚をご紹介いたします。

○ トーク内容 1) 「在来豚」との出会い 2) 怪物に見える「在来豚」の生理生態の理解 3) 飼育の難しさに向き合う 4) 飼育のコツ 5) 期待から確信へ 6) 「在来豚」生存への挑戦 7) 楠田さんとの出会い 8) 豚から沖縄の文化を語る 9) 琉球弧の在来種と伴に生きる取り組み

高田 勝

1960年東京都品川区出身。幼年期より動植物、特に在来家畜に興味を持ち、中学時に天然記念物の日本鶏を数多く飼育、後にアジア地域を野鶏の調査を行う。1984年に沖縄県今帰仁村に移住し、野鶏および在来鶏の飼育を開始。1993年沖縄県家禽資源保存会設立。1999年家畜人工授精所開設。2000年在来豚(アグー・アヨー)飼育をスタート。

未来のかけらラボ vol.2 ～パッシブデザイン再考～

2013/7/14(日) レクチャー① 13:00-14:30, ② 15:00-16:30 7/15(月・祝) 13:00-15:00 トークセッション
参加費 500 円 / 定員 50 名 / 講師 末武順子 (建築家)、モデレーター 芹沢高志 (センター長)



日光や風などの身近な自然の営み、住まいの知恵を建築のデザインに取り入れる「パッシブデザイン」。この考え方が登場した背景には、エネルギーの投入と機械設備に頼り、生命の基盤であるはずの自然や生態系を損なう結果を招いた当時の「アクティブ」な建築に対する懐疑がありました。

本講座では、イギリスを拠点として活躍する建築家、末武純子氏を講師に招き、パッシブデザインの成り立ち、日本とイギリスでのパッシブ建築の現状や展望についてレクチャーを行います。その後、トークセッションを通して、このような考えをわたしたちのこれからの生活にどのように生かしていくべきかをみんなで考えます。

※「未来のかけらラボ」とは

現代社会はさまざまな意味で混迷を深めています。未来が見えにくくなっており、そのために、希望を感じにくくなっているとも言えるでしょう。このラボはセンター長・芹沢高志をモデレーターに、身近に散らばる多様な未来のかけら、つまり可能性の芽を拾い集め、草の根的に自分たちの未来を思い描こうとしていく試みです。

末武 純子

建築家

1967 年生まれ。Suetake Studio 2 主宰。九州芸術工科大学大学院で省エネルギー・生態学的デザインを専攻。その後日本と英国にて様々な建築家のもとで働く。2000 年に独立し主に住宅設計を通じて国産木材や自然素材に向き合う。2005 年に再度渡英。昨年まで共同主宰を務めた事務所にて設計した木造住宅 Bateman Mews が 2010 年英国建築家協会賞受賞。現在はロンドンで UK パッシブハウス団体の仲間とコ・ハウジングを設計中。一級建築士。ドイツのパッシブハウス研究所公認パッシブハウス・デザイナー。

神戸スタディーズ #2 地 - 質からみる神戸

2013/6/26(水)7/10(水)24(水)3日間とも19:30-21:00 8/3(土)13:30-17:30

参加費 500 円 (全通し) / 定員 25 名 / 講師松田法子 (都市史・建築史研究者) モデレーター芹沢高志



今回は、大地、海、そして双方のあいだである“水際”という3つのエリアを設定し、地形などそれぞれ注目すべきポイントにフォーカスしながら“地-質からみる神戸”に迫ります。「地-質」とは、一般的な「地質」の意味合いを含みながらもそれだけではなく、都市や建築のありようやその行方をより深く考えていくための一つのきっかけづくりを目指した言葉です。その場所や土地のキャラクター(あるいはクオリティ)を再確認すること、そして、普段わたしたちの目に見えている都市や建築の表層だけではなく、空間的・時間的に深層を掘り下げていくことで、その姿をより深く理解したいと思います。

主なフィールドとして、旧居留地・元町・三宮に代表される「神戸」、そして隣り合う港町でかつより古い歴史をもつ兵庫を選び、都市「神戸」が位置付く大きな空間的骨格の把握を目指します。

「神戸スタディーズ」とは

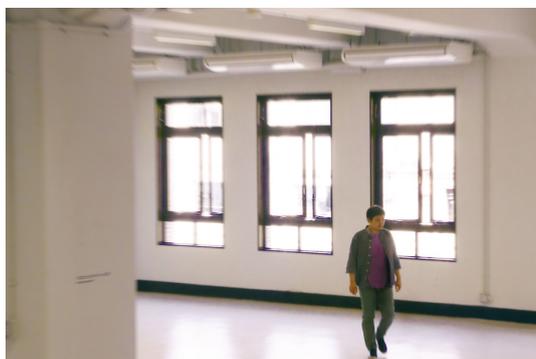
「神戸ってどんなまち？」と聞かれて、あなたはなんと答えるでしょうか。さまざまに語られる神戸というまちのイメージをあらためて考えるため、多様な専門分野の方を講師に迎え、これまでなかった視点で神戸を見る「神戸学」をつくる試みです。

松田 法子 (京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 専任講師)

1978 年生まれ。博士 (学術)。都市と自然の歴史的な切り結びなどに関心を持ち、これまでは主として温泉-都市を対象に、熱海や別府など近代日本の巨大温泉町の形成とその社会・空間構造について研究。同テーマによる学位論文にて日本観光研究学会 学会賞受賞 (2009 年)。著書に『絵はがきの別府』(左右社、2012 年)。

近年はオランダ・フリースラント州や新潟平野など、国内外の沿海低地部における都市・集落形成と水・低地との関係について調査研究を進めている。東京大学大学院客員研究員 (工学系研究科建築学専攻)、日本学術振興会特別研究員、東京大学大学院学術専門職員などを経て、2012 年より現職。

KIITO アーティスト・イン・レジデンス 2013 濱口竜介 即興演技ワークショップ in Kobe 参加者募集



映画監督・濱口竜介による、即興演技ワークショップの参加者を募集します。2014年2月にパフォーマンス作品の発表を目指し、約5ヶ月間のワークショップを行います。また参加者はワークショップ終了後、2014年3月に神戸市内で撮影予定の濱口竜介監督作品にキャストイングされます。KIITOや神戸のまちを舞台に作品を創り出す現場に、みなさまぜひご参加ください。

【監督・濱口竜介から】

「即興演技ワークショップ」をこのたび、デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）の主催のもと、開催します。ここで言う「即興演技」とは、単に好き勝手に「動く」ことや、アドリブで「話す」こととは違います。このワークショップの最も大きな柱は「聞く」ことです。真摯に「聞く」態度があって、初めて人は自由に「話し」「動く」ことができる。これは私が2年間、東北で続けた震災体験の聞き取りから得た実感です。そのことを「演技」という元々の自分の関心と結びつけたいと考えています。このワークショップの主たる目的は、「聞く」ことがいかに演技表現の即興的な現れを助けるのか、を探究することです。このワークショップでは僕を含めたすべての参加者は、何よりも「聞く」ことのプロフェッショナルになること、もしくはそのための一歩を踏み出すことが求められます。そのため、参加者にいわゆる演技経験を求めることもありません（もちろん、あっても構いませんが、これまでの経験はあまり役に立たないかもしれません）。求めているのはただ、コミュニケーションの意志、他者への関心、そしていずれはカメラや観客の前に立つためのほんの少しの覚悟だけです。約5ヶ月間のワークショップの成果として、パフォーマンス作品の制作およびKIITOでの発表を行います。そして、ワークショップ終了後には、有志参加による映画制作があります。それらをどのような形にするのか、まだ何も決めていません。それは参加する人たちと一緒に即興的に決めて行くためです。「不確かさ」は、このワークショップにとって最も重要なものです。ただ、これからお会いする人たちがこのワークショップを素晴らしいものにしてくれることだけは既に確信しています。だから今、とてもワクワクしています。ご参加を、心よりお待ちしております。

ワークショップカリキュラム

2013/9/14[土]-2014/2/8[土] 毎週土曜・全20週予定 *年末年始は除く

月(4週)ごとに課題を設定し、その課題発表を月の終わりに行います。

全体の流れ

月(4週)ごとに課題を設定し、その課題発表を月の終わりに行います。1日の予定 11:00～16:00(途中 昼休憩あり)

■前期:12週 毎月、「聞く」「話す」「動く」に関する課題発表あり 前期末、短編映画(10-15分)を制作します!

■後期:8週 毎月の課題と並行して、パフォーマンス作品の制作

成果発表:2/15(土) パフォーマンス作品をKIITOで発表!!

◆募集内容 演技表現もしくは身体表現に興味を持つ者。14～16名。

◆応募資格 年齢・経験・国籍・不問。

◆受講期間 2013年9月-2014年2月*ワークショップ終了後の3月に有志参加の映画製作あり

◆受講料 ¥70,000(全20週)

■応募方法 Web(<http://kiito.jp/schedule/workshop/article/3526/>)からダウンロードした所定の応募用紙を、締切日までに下記宛先まで郵送。メール:内容は同じく、所定の応募用紙に書き込み、添付にて締切日までに送付のこと。※添付資料としてポートフォリオもしくは自身の映った映像DVDの送付を希望する方は、どちらかを1部(枚)のみ送ってください。応募書類の返却は致しかねますので、あらかじめご了承ください。

■応募先 郵送:〒654-0009 神戸市須磨区板宿町3-5-2 KIITOアーティスト・イン・レジデンス2013 即興演技ワークショップ事務局(otive内) メール:workshop_info@otive.jp

■応募用紙の内容 1、顔写真(正面) / 2、氏名(フリガナ) / 3、生年月日 / 4、性別 / 5、住所 / 6、電話番号(固定 & 携帯) / 7、E-mailアドレス / 8、二次試験、三次試験の面接NG日 / 9、面接会場希望(東京 or 神戸) / 10、経歴 / 11、otiveからの質問事項 / 12、不明な点についての質問受付

■応募締切日 7/19(金) 必着(メール応募は日本時間23:59まで)

■面接会場 神戸会場:KIITO / 東京会場:未定(応募者各位に告知します)

問い合わせ先:KIITOアーティスト・イン・レジデンス2013 即興演技ワークショップ事務局(otive内)

mail:workshop_info@otive.jp

企画・運営:フィクティヴ有限責任事業組合 協力:株式会社NEOPA

濱口竜介(映画監督)

1978年、神奈川県生。2008年、東京藝術大学大学院映像研究科の修了製作『PASSION』が国内外の映画祭で高い評価を得る。その後も日韓共同製作『THE DEPTHS』(2010)、東日本大震災の被災者へのインタビューから成る映画『なみのおと』『なみのこえ』、東北地方の民話の記録『うたうひと』(2011～2013 / 共同監督:酒井耕)、4時間を越える長編『親密さ』(2012)を監督。精力的に新作を発表し続けている。2013年夏には京阪神で初の大規模特集上映「濱口竜介プロスペクティブ in 関西」が開催される。

催事の申込はウェブサイトにて6/4(火)11:00より開始します。

お問い合わせ:デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)広報担当

〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4 TEL 078-325-2235 FAX 078-325-2230

開館時間 11:00-19:00 入館料無料 休館日 月曜日 info@kiito.jp <http://kiito.jp/>